

Course number		G-LAS13 80007 LJ90					
Course title (and course title in English)	健康情報学 I Health Informatics I			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO	
						Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU	
						Kyoto University Hospital Associate Professor,KATOU GENTA	
						Part-time Lecturer,MIYAZAKI KIKUKO	
						Part-time Lecturer,SUGIMORI HIROKI	
						Part-time Lecturer,TSUTANI KIICHIRO	
						Part-time Lecturer,SONODA YUKI	
						Part-time Lecturer,WAKAO FUMIHIKO	
Part-time Lecturer,KURODA SATOSHI							
Part-time Lecturer,NAKATANI EIJI							
Group	Interdisciplinary Graduate Courses			Field(Classification)		Health and Medicine	
Language of instruction	Japanese			Old group		Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Second semester	
Days and periods	Fri.2		Target year	Graduate students	Eligible students	For all majors	
(Students of Graduate School of Medicine, Graduate School of Advanced Integrated Studies in Human Survivability cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)							
[Overview and purpose of the course]							
<p>健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。</p> <p>【大学院横断教育の概要・目的】 健康と医療を巡る情報の解釈・活用能力である「ヘルスリテラシー」は、万人に共通する必須の社会的技能である。本講義では様々な健康・医療の課題を取り上げ、「ヘルスリテラシー」、そして「ヘルスコミュニケーション」の理解を深める。</p>							

Continue to 健康情報学 I (2)							

健康情報学Ⅰ(2)

[Course objectives]

疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。
マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。
MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。

[Course schedule and contents]

第1回	10月2日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(1)(中山)
第2回	10月9日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(2)(中山)
第3回	10月16日	患者視点の情報: Quality of life と Patient reported outcome (宮崎)
第4回	10月23日	インターネットとe-ヘルス(高橋)
第5回	10月30日	質の高い医療情報の集約・共有・普及: 根拠に基づく診療ガイドラインを考える(中山)
第6回	11月20日	ベネフィットとリスクのコミュニケーション(中山)
第7回	11月27日	医療におけるデータの二次利用の課題(加藤)
第8回	12月4日	健康情報を巡る話題: テクニカル・コミュニケーションの視点から(中山・黒田)
第9回	12月18日	ナラティブ情報の意義と可能性(中山)
第10回	12月25日	「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備(若尾)
第11回	1月8日	代替医療とプラセボ: 健康情報とコミュニケーションの視点から(津谷)
第12回	1月15日	ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション(杉森)
第13回	1月22日	総合討論・個別発表 「健康情報学Ⅰを履修して」(中山)
第14回	2月4日	個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI(エムビーティーアイ: Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 13時30分~17時30分(園田)
第15回	2月5日	個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI(エムビーティーアイ: Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9時~12時、13時~16時(園田)

[Course requirements]

疫学または根拠に基づく医療(evidence-based medicine: EBM)の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。

[Evaluation methods and policy]

毎回の小レポート提出80%、発表20%

[Textbooks]

講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入(3,000円程度)

[References, etc.]

(References, etc.)

中山健夫著 『健康・医療の情報を読み解く: 健康情報学への招待』(丸善書店)

中山健夫監修 『ヘルスコミュニケーション実践ガイド』(日本評論社)

中山健夫・杉森裕樹監訳 『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』(丸善書店)

[Study outside of class (preparation and review)]

予習よりも復習に十分時間を取ることを

Continue to 健康情報学Ⅰ(3)

[Other information (office hours, etc.)]

情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。